



千年の時にふれる、千年の思いを学ぶ

日本の姿 音遊び

平安に生まれし衣紋道と雅楽の調

平成二十二年四月二十八日月曜日

茅野市民館マルチホール



平成 20 年 4 月 28 日(月)
茅野市民館マルチホール(JR 中央線 茅野駅東口隣接)
開場/17:30 開演/18:00 全席自由席(16:00~整理券配布)
前売/一般 4,000 円 学生 1,000 円(要学生証提示)
当日/一般 4,500 円 学生 1,500 円(要学生証提示)
■主催:長野県美容業生活衛生同業組合 諏訪支部
■後援:長野県美容業生活衛生同業組合 茅野商工会議所 FM 長野 LCV
信濃毎日新聞社 長野日報社 市民新聞グループ
■協力:ウォーターネット SG
■協賛:今井物産株式会社 有限会社宮坂企画 ナンシンコータ有限公司
■企画・制作:P4D-Operation System
■問い合わせ:グッドニュース 0266-54-7210 <http://www.lcv.ne.jp/~goodnews/>
●平成 20 年 2 月 2 日(土)より県内各プレイガイドにて発売開始!
プレイガイド:茅野市民館 チケットぴあベレック LCV シマダ楽器店 平安堂(茅野店 諏訪店)
まるみつ百貨店 笠原書店本店 井上プレイガイド
グッドニュースにて予約受付中! Tel.0266-54-7210

衣紋者

雅楽奏者



莊司礼子

衣紋道

衣紋道は、平安末期、鳥羽天皇の頃に、花園の左大臣と呼ばれた源有仁公(1103~1147年)が開祖となり、装束を、威厳正しく、美しく整えるための着付け方法が案出されました。これを「衣紋道」といいます。つまり衣紋道とは、装束の着装法のことです。装束の着装は、平安中期の頃までは柔らかい装束(柔装束)を着用していたため各自各個が行いましたが、装束が次第にゆるやかに大きくなり、「強装束」と呼ばれる糊をきかせた硬く厚い生地で作られたものとなると、自ら着装しかねた衣紋者(着付ける人)を必要としたため、衣紋道が生まれました。



石川 高
笙(しょう)



本橋 文
箏(ひらりき)



笹本武志
龍笛(りゅうてき)